




研究者名※	陶 嘉禱	学位※	博士(人間科学)
所属※	人間社会学部 社会福祉学科	職名※	助教
連絡先	tok@fc.jwu.ac.jp		
URL	http://www.		
researchmap※	https://researchmap.jp/20240217-tao		
研究分野※	社会科学、社会学、社会福祉学		
研究キーワード※	ソーシャルワーク、子ども福祉、女性福祉、ジェンダー、権利擁護		
共同研究・競争的資金等の研究課題	「SDGsを目指したデートDV当事者のセルフヘルプにつながるエンパワメント・アプローチの支援モデル構築研究」(JST次世代研究者挑戦的研究プログラム 早稲田オープン・イノベーション・エコシステム挑戦的研究プログラムW-SPRING、2021年10月～2023年3月)		
社会貢献・産学官連携活動等	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業「障害者ピアサポート研修における講師の養成のための研修カリキュラムの効果測定及びガイドブックの開発」検討委員(2021年4月～2022年3月) 令和4年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業「障害者ピアサポーターの支援内容や配置状況の実態把握及び多様な障害者の参加を想定した障害者ピアサポート研修におけるツールの作成のための調査研究」検討委員(2022年4月～2023年3月) 令和5年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業「障害者ピアサポート研修事業における障害当事者の参画の実態把握及び方策についての調査研究」検討委員(2023年4月～2024年3月) 		
受賞歴	「曹洞宗管長賞」(2015年)		

研究領域	<p>ソーシャルワーク、権利保障・権利擁護、ドメスティック・バイオレンス、子ども・若者</p>	<p>(SDGs)</p> 
研究テーマ※	デートDVにおける当事者性の形成とその支援に関する研究	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】</p> <p>児童虐待、いじめ、性暴力など、子ども・若者が直面する権利侵害の問題が多くある。そのなかで、若年層における恋人間の暴力、いわゆるデートDVも社会問題となってきている。10代のカップルのうち、3組に1組でデートDVが起きているといわれている。しかし、日本国内ではデートDVに関する研究の蓄積が少なく、法制度面におけるデートDVの位置づけ、予防と支援の体制整備も不十分な状況である。また、精神的暴力への認識の不十分さ等により、若者当事者が自身の被害・加害に気づきにくく、いわゆる「当事者性」が形成されにくい問題がある。</p> <p>これまでは、大学生等に焦点を当てて、なぜデートDVにおける当事者性が形成されにくいのかについて調査研究をしてきた。特に、デートDVの実態や特徴、被害経験・加害経験に影響を与える要因を検討した。そのうえで、実際に自身の被害・加害に気づき、当事者意識をもつことに至った若者当事者にインタビュー調査を行い、デートDVに気づくプロセスを明らかにしてきた。それらの結果から、当事者性の形成を阻害する要因、促進する要因を検討し、若者当事者のニーズにあったデートDV予防教育と相談支援の方法が考えられた。</p> <p>今後は、若者当事者だけでなく、デートDV予防教育やSNS相談などに取り組んでいる団体・機関にも調査を行い、現場における支援の難しさや課題、デートDVへの気づきを促すための方法を研究していく。その際に、デートDV問題にとどまらず、児童虐待や性暴力など、子ども・若者の権利侵害の問題にも注目しながら、若年層の生きづらさというやや広い視点から、若年層の権利保障・権利擁護のための法整備と支援の在り方を研究していく。</p> <p>【応用例、研究の展望】</p> <p>虐待や暴力の問題において、被害者も加害者も自身が当事者であることを認識しにくい問題がある。本研究ではデートDVに着目しているが、虐待や性暴力、ハラスメントにおける当事者性の形成に関する研究にも寄与できると考えられる。</p> <p>本研究の展望として、実践レベルでデートDVにおける当事者性の形成と支援を検討するだけでなく、実践現場での難しさや課題、若者当事者のニーズ、その両者のギャップ等を明らかにすることを通して、法制度面においてデートDVの法的位置づけの明確化、DV防止法の改正にもつなげていきたい。</p> <p>【研究方法の特色】</p> <p>研究方法として、量的研究(アンケート調査)と質的研究(インタビュー調査)の両方を行っている。また、これま</p>	

	<p>では大学生等の若者当事者の視点に立ち、当事者の抱える困難さやニーズを明らかにしてきた。今後は研究の対象を支援者・援助者にも広げ、質問紙調査とインタビュー調査を行い、支援者目線からみた若者当事者の生きづらさや支援現場の課題等も明らかにしていく。</p>
<p>本研究関連 特許・論文等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・陶嘉禱「若年層におけるデートDVの特徴と今後の支援に関する一考察」『人間科学研究』35(2), p.311-323, 2022年 ・陶嘉禱「デートDV若者当事者による被害経験・加害経験への気づきのプロセスに関する研究—複線径路・等至性モデル(TEM)を用いて—」『精神保健福祉学』12, p.31-44, 2025年
<p>共同研究・外部機関 との連携への期待</p>	<p>自治体や民間団体により、デートDV予防教育を推進しているが、情報共有の不足や機関連携の整備がされていない課題が生じている。今後は、自治体や民間団体との共同研究を行い、地域による取り組みの格差の解消を目指していきたい。</p>